

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名 一般国道8号 <small>ふくい</small> 福井バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局
起終点 自：福井県あわら市 <small>さきおか</small> 笹岡 至：福井県越前市 <small>えちぜん</small> 塚原町		延長 42.2km
事業概要 一般国道8号は、新潟県新潟市を起点とし、北陸3県(富山、石川、福井)の主要都市及び滋賀県湖東地域を経て、京都市に至る延長約570kmの主要幹線道路であり、沿線地域の産業・経済を支えるとともに、北陸自動車道や名神高速道路などとともに広域ネットワークを形成するなど重要な役割を担っている。 福井バイパスは、あわら市笹岡から越前市塚原町を結ぶバイパスで、地域産業の活性化、交通安全の確保、災害時の住民避難支援を主な目的として計画された道路である。		
S41年度事業化 (H2年度延伸)	S45～55年度都市計画決定 (H3年度、H8年度変更)	S41年度用地着手
S41年度工事着手		
全体事業費	940億円	事業進捗率
		約96%
		供用済延長
		36.8km
計画交通量	20,200台/日	
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 2.2 (残事業) 5.5	総費用： (残事業)/(事業全体) 85/2,852億円 事業費：49/2,568億円 維持管理費：36/284億円
		総便益： (残事業)/(事業全体) 468/6,198億円 (走行時間短縮便益：426/5,494億円) (走行経費減少便益：34/629億円) (交通事故減少便益：8.7/74億円)
		基準年 平成25年
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.8～2.6(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.2～2.2(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.3(事業期間±20%)		
【残事業】 交通量：B/C=4.4～6.7(交通量 ±10%) 事業費：B/C=5.2～5.8(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=5.3～5.6(事業期間±20%)		
事業の効果等 ①地域産業の活性化 ・福井県地域産業活性化計画に基づき増加する企業立地に関して、残る区間の整備により、さらなる利便性向上、地域活性化が期待される。 ②交通安全の向上 ・4車線整備済区間より正面衝突事故が多く発生している未整備区間に並行する現道区間において、残る区間の整備により、歩道及び中央帯が整備されることで、事故減少が期待される。 ③災害時の住民避難支援 ・福井県では原子力発電所が有事の際に県内外に避難する防災計画が定められており、残る区間の整備により、円滑な避難に寄与することが期待される。 ④特急停車駅へのアクセス向上 ・坂井市丸岡町～JR芦原温泉駅への所要時間が短縮（14分→12分） ⑤共用飛行場へのアクセス向上 ・福井市～小松空港への所要時間が短縮（94分→91分） ⑥農林水産品の流通の利便性が向上 ・あわら市、坂井市の主要農産物であるコシヒカリ、スイカ等について、主な出荷先である福井市への流通の利便性向上が見込まれる。 ⑦日常活動圏中心都市へのアクセス向上 ・あわら市～福井市への所要時間が短縮（44分→41分） ⑧主要観光地へのアクセス向上 ・沿線へのアクセス向上により観光客の増加が見込まれる （金津創作の森：約14.3万人/年、丸岡城：約34.7万人/年） ⑨三次医療施設へのアクセス向上 ・あわら市～福井県立病院への所要時間が短縮。（33分→30分） ⑩緊急輸送道路が通行止めになった場合の代替路線を形成		

・国道8号、主要地方道福井金津線、主要地方道芦原丸岡線(坂井市丸岡町～あわら市熊坂)が通行止めになった場合の代替路線となる。

⑪沿道環境の改善

- ・国道8号あわら市瓜生(騒音レベル：夜間73dB：改善見込み)
- ・国道8号坂井市丸岡町一本田(騒音レベル：夜間72dB：改善見込み)

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・平成28年5月、福井県知事・あわら市・敦賀市・池田町より整備促進の要望を受けている。
- ・平成28年10月、福井バイパス道路建設促進協議会(あわら市長、福井市長、坂井市長より構成)より整備促進の要望を受けている。
- ・平成28年10月、あわら市・加賀市議会友好議員連盟より整備促進の要望を受けている。

福井県知事の意見：

福井バイパスの対応方針(原案)「事業継続」については異存ありません。

国道8号福井バイパスのあわら市笹岡～坂井市丸岡町玄女間5.4kmについては、平成30年9月開催予定の「福井しあわせ元気国体」までの開通が公表されたところであるが、国体の競技会場へのアクセス向上はもとより、更なる企業立地や物流の安定、広域的な周遊観光など、地方創生を加速させるためには必要不可欠であるため、4車線での早期完成をお願いしたい。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道8号福井バイパス」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切であり、対応方針(原案)のとおり「事業継続」することが妥当と判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

福井バイパスが通過するあわら市の人口は減少、坂井市は増加傾向にある。
また自動車保有台数はあわら市・坂井市ともに増加傾向にある。
福井県は8年連続で一世帯あたりの自動車保有台数が全国一位である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに36.8km(完成4車線)開通済、用地進捗率：約100%、事業進捗率：約96%。
引き続き工事を進め、平成30年9月の「福井しあわせ元気国体」までの開通を目指す。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、早期の暫定2車線開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

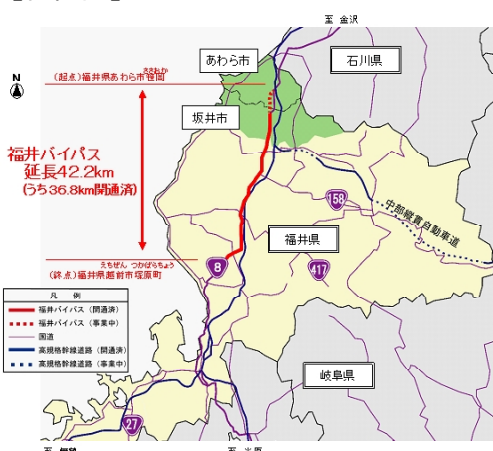
対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

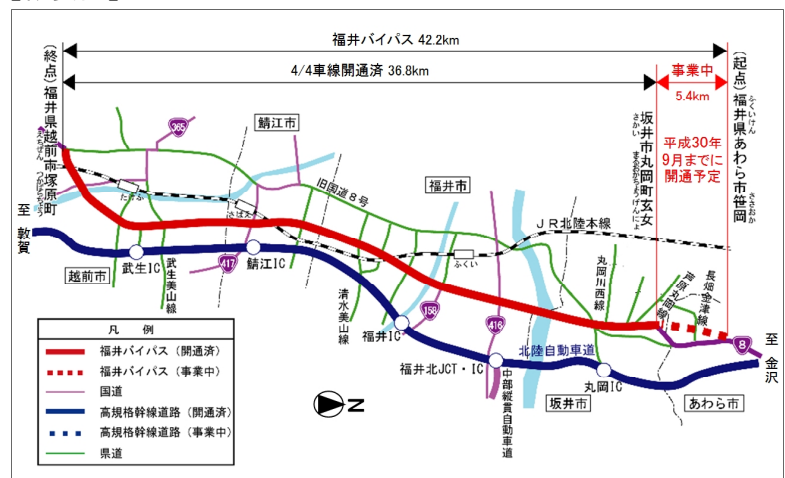
以上の状況を勘案すれば 当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。